

月岡遺跡

—月岡総合公園整備事業に伴う月岡遺跡発掘調査報告書—

2006

新潟県魚沼市教育委員会

序

この冊子は、魚沼市堀之内に所在する月岡遺跡において、平成14～16年度にかけて実施してきた確認調査及び発掘調査報告書であります。本遺跡は越後と群馬の県境をなす三国山系に源を発する魚野川の左岸、旧堀之内町市街地の南西部県立堀之内高等学校の裏手にある月岡段丘に位置している遺跡であります。

月岡遺跡については、昭和43年、堀之内中学校考古クラブにより発見され、その一部について長岡科学博物館考古研究室により学術調査が行われた。調査の結果、後期旧石器時代終末期の細石刃文化の遺跡として川口町荒屋遺跡とともに考古学史にも知られております（昭和54年4月には旧堀之内町指定文化財にも指定されています）。後期旧石器時代終末期は、長く続いた氷河期が終わりに近づき、縄文時代の幕開けを間近にひかえた始動の時代であります。魚沼市も昨年、平成16年11月1日に近隣6町村と合併し、新たに始動しました。

本書の成果が当地域の歴史・文化や祖先の生活の営みを明らかにするための資料として広く活用され、遺跡（埋蔵文化財）に対する理解を深める契機となれば幸いであります。

この報告書の刊行にあたりご理解とご協力を賜りました地元の皆様やご指導頂きました新潟県文化行政課ならびに関係各位に対し心から深く感謝の意を表します。

平成18年3月31日

魚沼市教育委員会

教育長 町 田 昌

例　言

1. 本書は、月岡遺跡・月岡公園遺跡の調査報告書であり、両遺跡とも新潟県魚沼市堀之内字月岡（旧堀之内町）に所在する。
2. 調査は、魚沼市教育委員会（旧堀之内町）が主体となって実施した。調査の経費は平成16・17年度調査において国庫及び県費の補助金交付を受けた。
3. 調査は、魚沼市（旧堀之内町）月岡総合公園整備事業に伴うものである。現地調査は、月岡遺跡・月岡公園遺跡とともに平成14年度に確認調査を実施し、15年度に発掘調査を実施した。ただし月岡遺跡は、遺跡の範囲を確認するため平成16年度に再度、確認調査を実施した。
4. 遺物整理の一部を平成15年度に行い、残りの整理と報告書作成を平成18年1～3月にかけて実施した。
5. 報告書の執筆分担は梅川が第1章を、高木が第2章～第5章をおこなった。
6. 出土遺物、図面・写真記録等は、魚沼市教育委員会が保管している。
7. 調査体制については本文末に記載する。
8. 昭和43年に行われた調査で、長岡科学博物館考古学研究室から文化庁に提出された報告書が堀之内町教育委員会に残っていた。貴重な資料であり、長岡市立科学博物館の許可を得て掲載させていただいた。
9. 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関からご指導、ご協力をいただいた。ここに記して御礼申し上げる。（敬称略）

新潟県教育庁文化行政課、鈴木俊成、國島 聰 田海義正 加藤 学 吉田福恵 小林 武 星野 尹
宮 正伴 下村恭一

目　次

序.....	1
第1章　調査に至る経緯.....	3
第2章　地理的環境.....	4
第3章　歴史的環境.....	4
第4章　遺跡.....	6
平成14年度確認調査.....	6
平成15年度発掘調査.....	8
平成16年度確認調査.....	14
第5章　まとめ.....	16
引用・参考文献.....	17
調査抄録.....	18

挿図・表

挿図

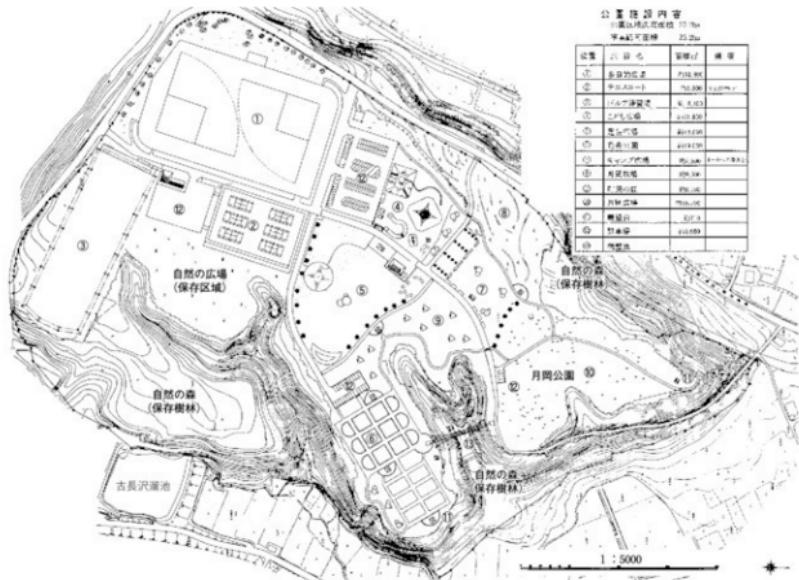
第1図　月岡遺跡・月岡公園遺跡位置図.....	3
第2図　魚沼市内埋蔵文化財位置図(旧石器・縄文草創期).....	5
第3図　月岡遺跡・月岡公園遺跡土層柱状図.....	6
第4図　平成14年度確認調査トレンチ位置図.....	7
第5図　月岡遺跡・月岡公園遺跡確認調査出土遺物	7
第6図　月岡遺跡発掘調査検出遺構実測図.....	8
第7図　平成15年度月岡遺跡発掘調査確認調査全体図.....	9
第8図　月岡遺跡発掘調査土層断面図及び土層柱状図	10
第9図　月岡遺跡発掘調査出土旧石器実測図.....	11
第10図　月岡遺跡発掘調査出土縄文時代遺物実測図	12
第11図　月岡遺跡発掘調査(排水路)出土遺物分布図	13
第12図　月岡公園遺跡第2次確認調査トレンチ位置図	14
第13図　月岡遺跡確認調査トレンチ位置図	15
第14図　月岡遺跡確認調査土層柱状図	15
第15図　月岡遺跡旧石器包含層推定範囲図	16
表	
第1表　月岡遺跡出土旧石器観察表	11
第2表　月岡遺跡出土石器(縄文時代)観察表	13

第1章 調査に至る経緯

月岡遺跡は、昭和43年に長岡市立科学博物館考古学研究室によって発掘調査がなされ、旧石器時代最終末の細石刃文化期の遺跡であることが確認されており、隣接する川口町の荒屋遺跡とともに、学史に残る遺跡である。昭和54年には、昭和43年の発掘調査区が堀之内町指定文化財となっている。

昭和63年に策定された、堀之内町第3次総合計画において、都市計画公園として月岡地区に総合公園の整備を図ることとなり、平成元年5月に公園計画全域対し、第1次確認調査が実施された。その結果をもとに、月岡遺跡のはば全城に対しても、低盛土工法による遺跡保存処置が講ぜられることになった。

その後、総合公園計画は、都市計画法において、下流の田畠を考慮し、大雨が降った場合の調整池の役割も必要ということとなり、遺跡周辺に管理道路を兼ねる園路（堤）及び排水路が建設される計画となった。公園計画をもとに平成14年、新潟県文化行政課、町教育委員会、町建設課は遺跡の取扱いについて協議を重ねた。県文化行政課からは、排水路は掘削が行われるため、また園路も盛土が3mを超える箇所がみられるところから確認調査が必要との指導をうけた。建設課から平成15年には排水路の、平成16年度には園路の工事に着手したいとの要望があり、堀之内町から文化財保護法第57条の第3項（現第94条）の規定による埋蔵文化財発掘の通知が新潟県教育委員会に提出された。平成14年11月から水路部分の確認調査、平成15年5月から排水路部分の発掘調査及び園路部分の確認調査を実施した。なお園路部分の確認調査で、遺物遺構が確認された場合は、拡張し、本調査に切り替えることとした。また平成16年度は、国県の補助事業として、遺跡の北東側に位置する段丘面を確認調査した。



第1図 月岡遺跡・月岡公園遺跡位置図 (S=1/5,000)

第2章 地理的環境

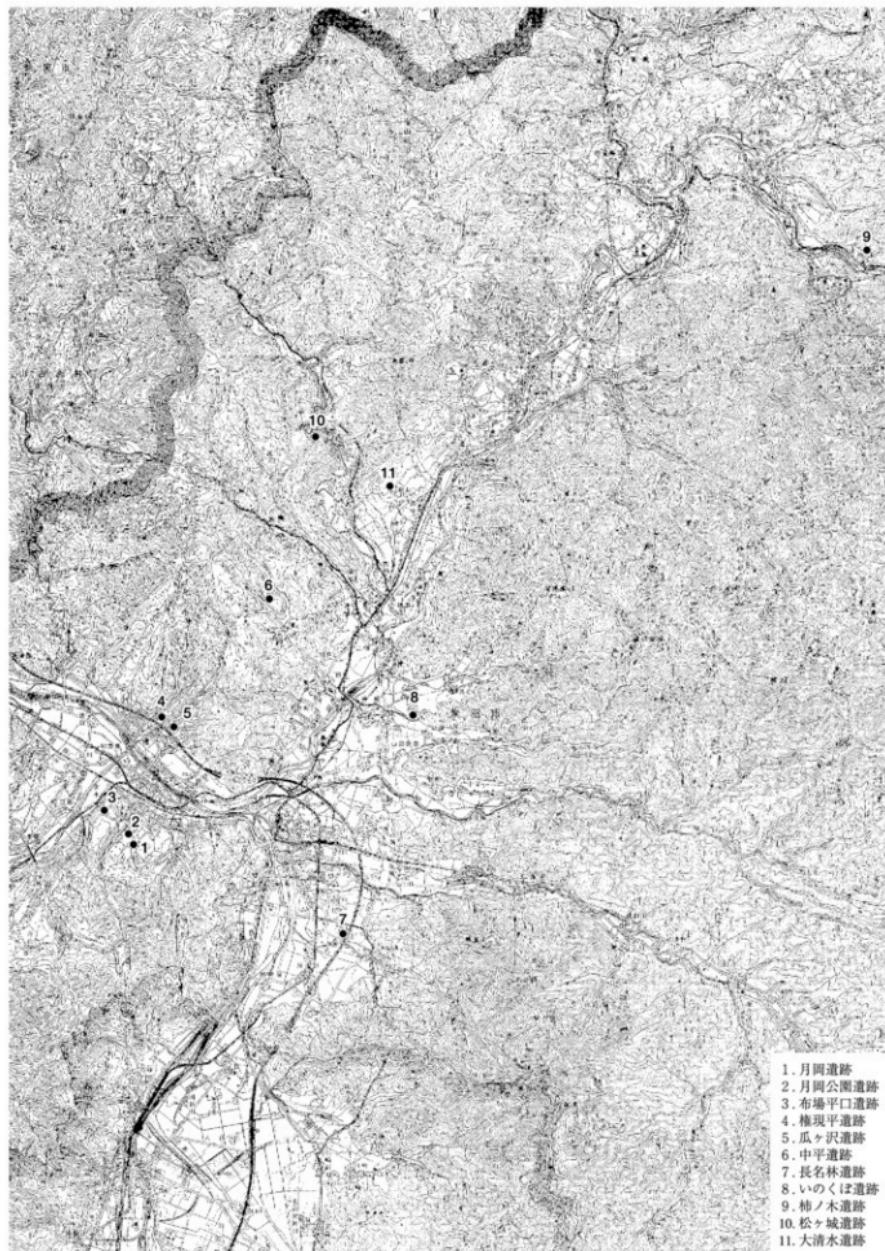
月岡遺跡が所在する魚沼市堀之内地区の地形概要について簡単に述べる。三国山系を源とする魚野川は、新発田一小出構造線に沿って北上し、同じく入広瀬大白川から南下する破間川と小出島で合流し、流路を北西方向へ流れ下流の川口町で信濃川と合流する。この魚野川を境として堀之内地区的地形は大きく二分化される。それは西南側(左岸)に広がる平坦な河岸段丘面と東北部側(右岸)にみられる山地性の丘陵である。当地区の遺跡は南西側の河岸段丘上に立地するものが大半を占め、東北部側では冲積地と接する小規模な河岸段丘上に僅かに存在するにすぎない。時期別には縄文時代の遺跡が全体の60%と最も多い傾向にある。

月岡遺跡・月岡公園遺跡は、南西側の河岸段丘上に位置し標高140～145mを測る。段丘縁周辺は湧水と大小の沢により急峻に開析されている。また、本遺跡(細石刃文化)とはほぼ同時で学史上有名な荒屋遺跡は、直線距離にして約6.5m下流に位置する。河岸段丘は現在11面に区分される。月岡遺跡・月岡公園遺跡はH7面に対比され更新世末期に形成された段丘上に立地する。

第3章 歴史的環境

旧堀之内町周辺では、早くから星野芳郎・井口通泰両氏をはじめ地元の研究者により精力的に遺跡分布調査が実施されてきた。堀之内町の小盆地の南側は河岸段丘が広く発達しており、遺跡の存在も多く知られる。これまでにも上の原、原・居平、正安寺、春日平、古長沢、布場平D遺跡等が発掘調査されてきた。それに対し魚野川右岸は河岸段丘の発達が比較的弱く、遺跡数も極端に少ない。しかし、関越自動車道建設に伴い、魚野川北岸の段丘に道路が計画されたため、新潟県教育委員会により、昭和55～56年にかけて椎現平遺跡、瓜ヶ沢遺跡、滝沢の塚、昭和57・58年、平成2～5年に清水上遺跡が発掘調査された。また1990年には旧堀之内町教育委員会により古林古墳も発掘調査されている。

堀之内地区及び魚野川流域における旧石器及び縄文草創期に帰属する遺跡については、佐藤氏がまとめておられる〔佐藤1985・1988〕。また最近の調査結果も踏まえ簡単に魚沼市内の旧石器及び縄文草創期の遺跡について概要を述べる。市内には現在、旧石器と草創期に帰属する遺跡が12遺跡ある。上の原B遺跡では、ナイフ形石器、刃部磨製石斧、尖頭器、搔器が採取されている。布場平D遺跡(3)は、1983年の発掘調査で削器、搔器が出土している。椎現平遺跡(4)は、1980年の発掘調査の際、遺物集中地点2点、疊群3点、尖頭器1点、石刃1点、搔器1点、剥片53点、碎片201点等が検出されている。その中で12点の接合資料も得られている。その隣に位置する瓜ヶ沢遺跡(5)は1980・1981年の発掘調査でナイフ形石器2点、チョッパー4点、チョッピングトゥール1点、剥片2点が出土している。中平遺跡(6)(旧広神泉沢)は破間川右岸の台地上に位置し、尖頭器2点、2次加工のある剥片1点、剥片・碎片131点が採取されている。長者林遺跡(7)(旧小出中原)では、刃部磨製石斧が表面採取されている。江口遺跡(8)(台帳:いのくぼ遺跡)からもナイフ型石器1点が採取されている。その他に柿ノ木遺跡(9)(旧入広瀬柿ノ木)からは搔器・石刃が表探されている。松ヶ城遺跡(10)(旧広神小平尾)は破間川支流の和田川右岸に位置し、1990年の広神ダム建設に伴う確認調査で石鏃2点、打製石斧2点、両面加工剥片4点、石核1点、微細洞片のある剥片5点、剥片・碎片16点、疊3からなる縄文草創期の石器群が出土している。うち接合資料3点も得られている。大清水遺跡(11)(旧広神栗山)では、破間川右岸の段丘標高200mに位置し、平成11年度の団体営園場整備に伴う発掘調査の際に円盤形石斧1点、尖頭器1点が出土している。また現在調査中の黒姫洞窟遺跡(旧入広瀬大白川)からは現最下層より微隆起線文土器が16点出土しており、今後の成果が期待される。



第2図 魚沼市内埋蔵文化財位置図（旧石器・縄文草創期）（1／100,000）

第4章 遺跡

平成14年度 月岡遺跡2次確認調査・月岡公園遺跡確認調査

月岡公園整備事業に伴い、排水路の設置と月岡公園に向かうための園路工（長さ180m・幅6m）の設置が行われる。設置位置は遺跡の周知範囲の端部にあたり、月岡遺跡及び月岡公園遺跡両遺跡の規模を把握するため確認調査を行った。月岡遺跡は旧石器が出土する可能性もあることから、試掘坑（長さ2~4m×幅2m）に対しては表土剥ぎから人力でを行い、遺物包含層・遺構・遺物の有無を確認し、土層堆積状況等の記録を行った。また、試掘坑で掘削した土壤を篩にかけ微細遺物の採取に努めた。出土した遺物は試掘坑ごとに取り上げた。月岡公園遺跡は星野芳郎・井口通泰両氏が昭和43年に発見され、縄文時代中期の遺物を表探しているが、公園化に伴い詳細は不明である。そのため今回園路設置に伴って確認調査を実施した。調査面積は、月岡遺跡が試掘坑8ヶ所44m²、月岡公園遺跡が試掘坑4ヶ所28m²である。

1 基本層序

月岡遺跡

I層：黒褐色土（耕作土）、II層：暗茶褐色土、III層：黒褐色土（縄文時代遺物包含層）、IV層：黄褐色粘質土、漸移層 V層：黄色土、VI層：黄色砂礫土（人頭大の礫を含む）から構成される。

月岡公園遺跡

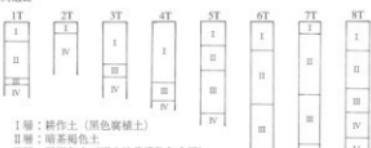
I層：黒色腐植土（耕作土）、II層：暗茶褐色土、III層：黒褐色土（縄文時代遺物包含層）、IV層：黄褐色粘質土、漸移層 V層：黄褐色粘質土、VI層：黄色砂礫土から構成される。

2 主な遺構・遺物 [第5図1~7]

両遺跡とも特に遺構は検出されなかったが、遺物包含層は確認でき、少量の遺物が検出された。月岡遺跡では、2Tを除く全てのトレーナーで層黒褐色土（遺物包含層）が確認された。試掘坑5~7Tからは21点（縄文土器片16点総重量187g、石器5点総重量441.1g）の縄文時代の遺物が検出された。各試掘坑の内訳は5T：縄文土器片11点、石器5点（打製石斧1、石核1点、両極石器1点、礫1点、剥片1点）、6T：縄文土器片4点、7T：縄文土器片1点である。出土遺物は、すべて縄文時代のもので、中期前葉～中葉のものと考えられる。

月岡公園遺跡では唯一試掘坑1Tから遺物が検出された。1Tより北側は用地買収が済んでおらずトレーナーを拡張することができなかった。内訳は縄文土器片11点（総重量375.7g）石器片16点（総重量715.2g）が出土した。縄文土器片は2個体になり、縄文時代中期前葉～中葉である。石器の石材は鉄石英1点、变成岩1点を除いてすべて流紋岩である。1~3は、深鉢の胴部破片で、1・2は半隆起線文、3は格子目文を施す。4は深鉢の口縁部破片で、折り返し口縁で、沈線を施す。胴部は、摩滅して文様が明瞭でないが縄文LRが施されている。5は北陸系の深鉢口縁部で、爪形文を巡らす。6は打製石斧である。長さ10.79cm、幅4.89cm、厚さ1.52cm、重さ106.2gを量る。正面の刃部に使用痕が認められる。石材は安山岩である。7は石核である。大まかな剥離（荒割り）が2面以上に行われている。石材は頁岩である。

月岡遺跡



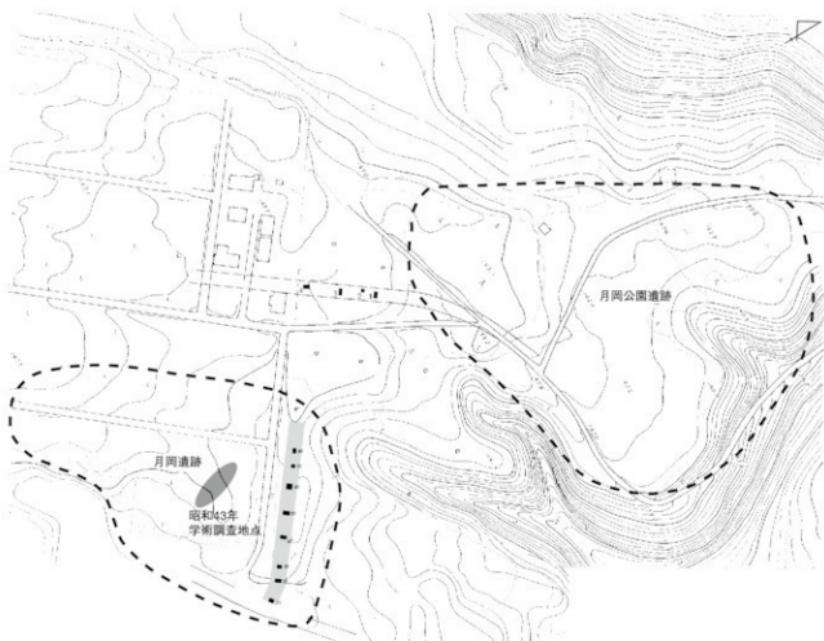
I 層：耕作土（黒色腐植土）
II 層：暗茶褐色土
III 層：黒褐色土（縄文時代遺物包含層）
IV 層：黄褐色粘質土・漸移層
V 層：黄色土
VI 層：黄色砂礫土（砂・人頭大の礫を含む）

月岡公園遺跡

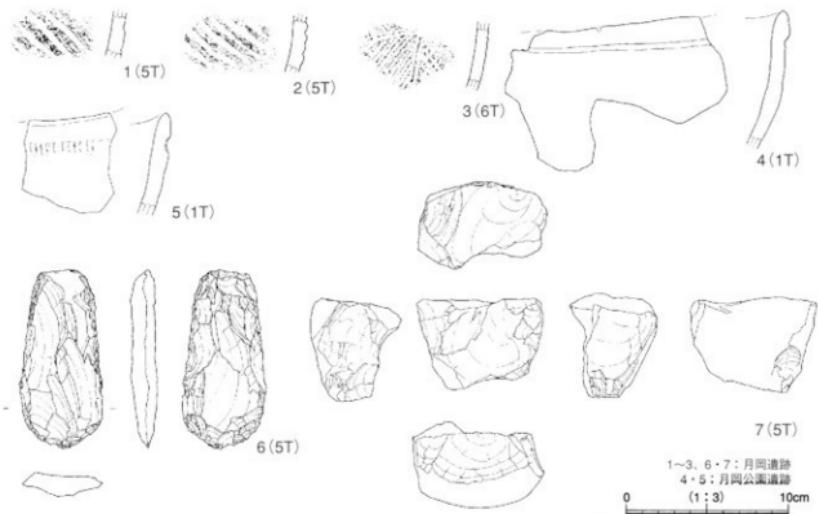


I 層：耕作土（黒色腐植土）
II 層：暗茶褐色土
III 層：黒褐色土（縄文時代遺物包含層）
IV 層：黄褐色粘質土・漸移層
V 層：明黄色粘質土
VI 層：黄色砂礫土

第3図 月岡遺跡及び月岡公園遺跡確認調査土層柱状図 (S=1/40)



第4図 平成14年度確認調査トレンチ位置図 (S=1/2500)



第5図 月岡遺跡・月岡公園遺跡確認調査出土遺物 (S=1/3)

平成15年度 月岡遺跡発掘調査

1 調査の方法

前年度の確認調査の結果より、遺物が出土した試掘坑5~7Tを中心に工事掘削範囲(排水路:長さ89m×幅4m 356m²)部分を調査した。まず調査区のグリット設定を行なった。工事範囲の中央に任意の基本杭を設定し、そこから10m×10mのグリット(大グリット)を設定する。東西方向、東から西へA B C…、南北1 2 3…と番号を付けた。さらに大グリットを2m×2mのグリット(小グリット)で25個に細分する。月岡遺跡の調査範囲は幅4mであるため、1~10の範囲で小グリットを組んだ。位置は、「1A(大グリット)-6(小グリット)」などと表記した。

確認調査の際に東側(B・Cグリット)では遺物が出土しているため、表土剥ぎから人力による調査を行い、その他は、法面パケット装着のバックホーで「層上面まで掘削し、それ以降は人力で調査を行なった。検出した遺構は半截後に断面観察を行い、掘り下げ、完掘した。調査期間は、平成15年5月6日から6月17日まで、約1ヶ月半であった。また、併せて花卉公園へ向かう園路(築堤部)が排水路の東側平坦部に設置されるため本遺跡の規模を把握する確認調査(第3次確認調査)を実施した。

2 基本層序

I層:耕作土(黒色腐植土) II層:暗茶褐色土 III層:黑色土…遺物包含層 IV層:暗黄褐色土・漸移層 V層:黄褐色土 VI層:灰黄褐色土 砂質層 小石混入 VII層:灰黄褐色土 砂質層 小石混入無し VIII層:暗黄褐色土 砂利層から構成される。試掘坑9、10、13、14、16Tでは上層30~60cmを客土で覆われている。

3 遺構

本遺跡から検出された断構は、本調査区からピット1基、築堤部分では試掘坑10Tから焼土1基が検出されたに過ぎなかった。また排出部の遺構検出面ではピットらしきものの数基を1G大グリット周辺で認められたが、半截後に形状や土層を観察した結果いずれも遺構でないことが判明した。遺構・遺物が少ないので、調査対象区が遺跡の北はずれにあたることと、調査面積が小さいことも要因である。

ピット1

ピットは1G-4グリットに位置し、平面がほぼ円形を呈するピットである。III層下で確認し、南北46cm×東西70cm、深さ50cmを測る。ピット内から遺物は検出されていない。

焼土

築堤部10Tを拡張した際に検出された。南北125cm×東西150cmを測り、焼土周辺のII・III層から縄文土器片・石器が多く出土している(10~13)。

4 出土遺物 [第9・10図1~27]

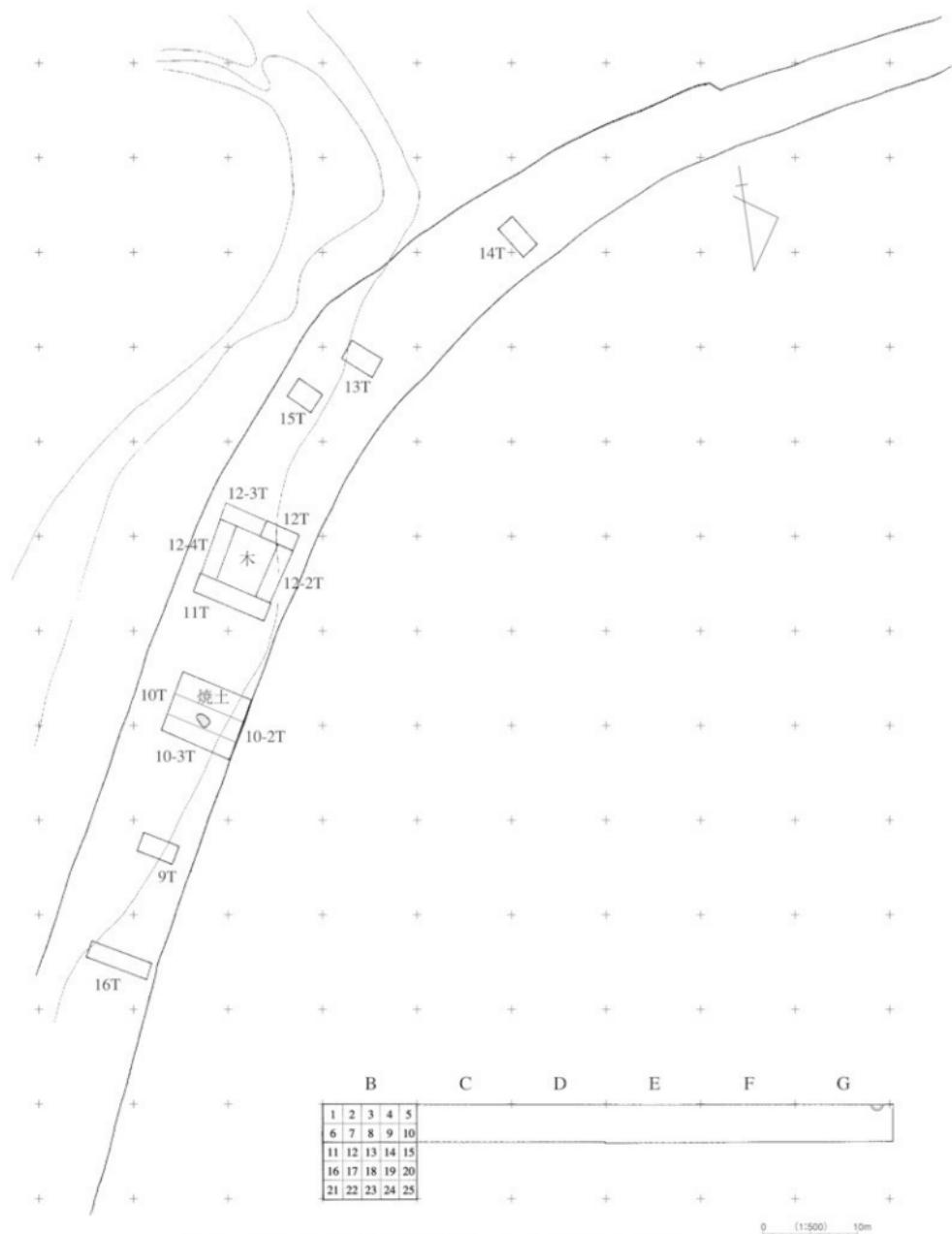


第6図 月岡遺跡検出遺構実測図(S=1/40)

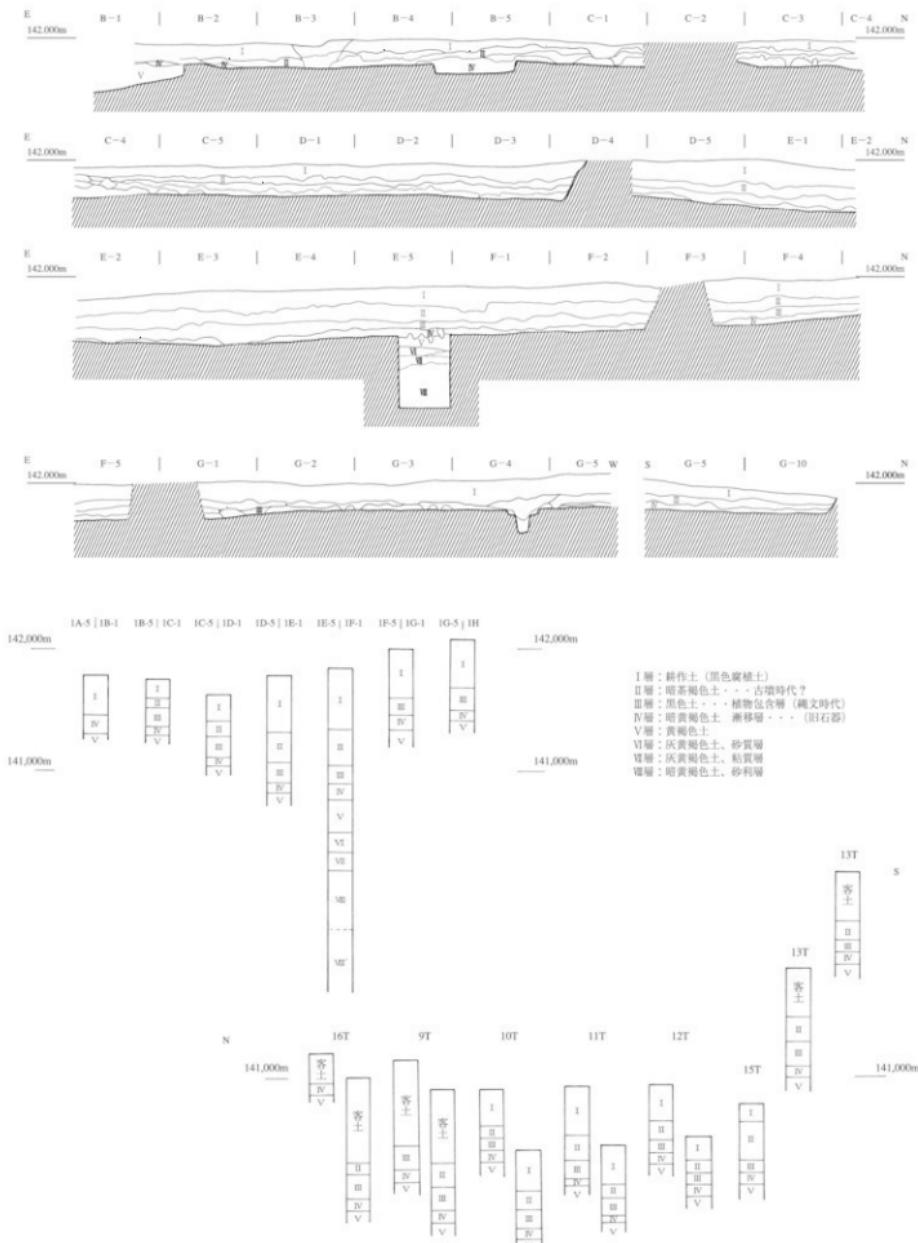
本遺跡からの主な出土遺物の内訳は、排水路部分(本発掘調査)から旧石器(彫器)1点、縄文土器片39点(総重量739.7g)、縄文時代の石器15点(総重量1922.9g)、土師器片(古墳)1点が検出された。築堤部分(確認調査)から旧石器4点、縄文土器70点(総重量2149.7g)、石器9点(総重量192.7g)である。内訳は9Tから土器8点、石器3点、10Tは土器53点、石器2点、11T土器3点、12T土器4点、石器3点、14T石器1点、15T土器1点、16T土器1点が出土し、ほとんどがIII層からの出土である。出土状況は主に排水路の1Bと1C東側に、築堤部は10Tに集中して出土している。

A) 旧石器 [第9図1~5]

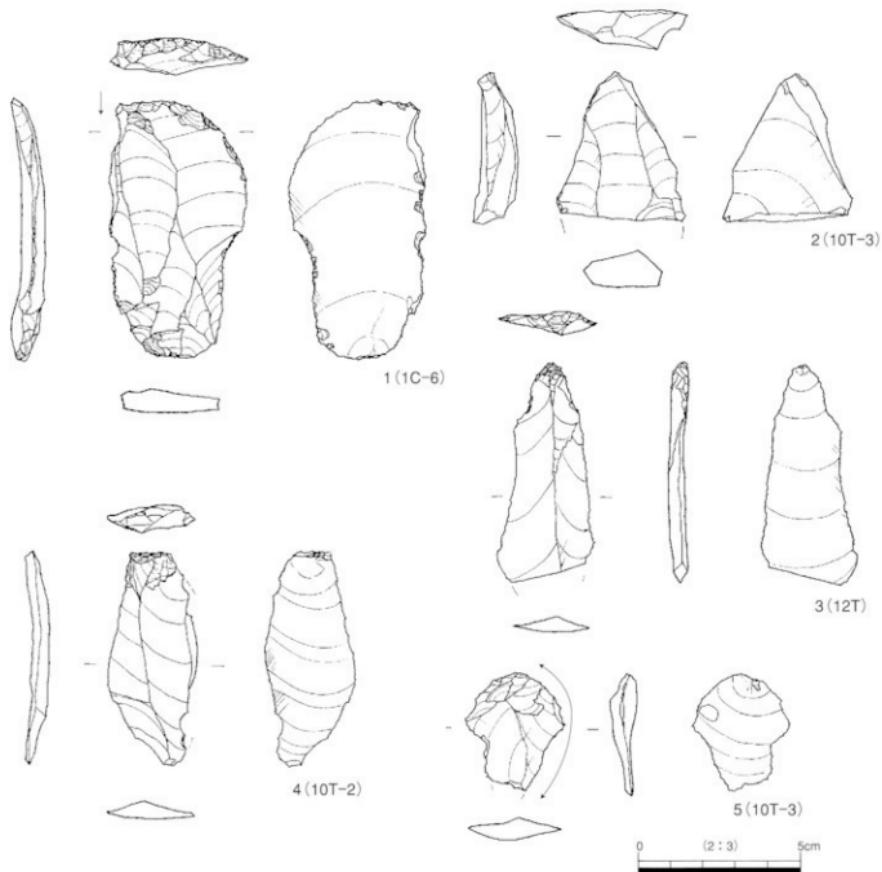
1点を除いて、すべて築堤部に伴う確認調査の試掘坑から出土したものである。出土層位は、III層から4点、IV層から1点である。石材はすべて珪質頁岩である。彫刻刀形石器(1) 1は、唯一1C-6グリットから出土した彫刻刀形石器である。左肩をほぼ垂直にそいで彫刻刃面を作り出したものである。彫刻刃打面は右肩



第7図 平成15年度月岡遺跡発掘調査・第3次確認調査全体図 (S=1/500)



第8図 月岡遺跡調査区土層断面図($S=1/100$)及び土層柱状図($S=1/40$)

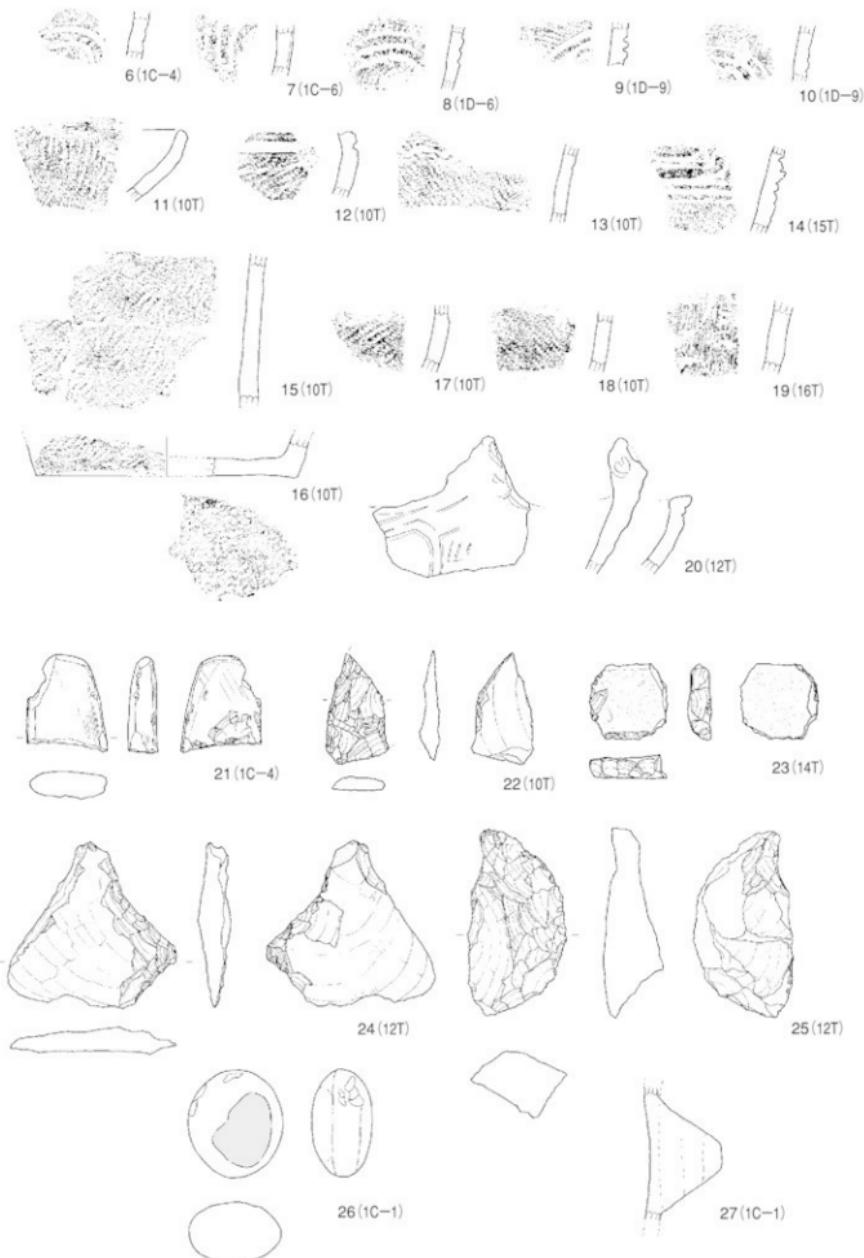


第9図 平成15年度月岡遺跡発掘調査・確認調査出土遺物 旧石器 (S=2/3)

遺物観察表(旧石器)

番号	出土地点	層位	器種	石材	法量(cm·g)				備考
					長さ	幅	厚さ	重量(g)	
1	1C-6	IV	彫刻刀形石器	珪質頁岩	7.83	4.23	0.73	26.6	
2	10T-3	III	剥片	珪質頁岩	4.41	3.88	1.36	18.7	彫刻刀形石器?
3	12T	III	石刃	珪質頁岩	6.41	2.71	0.52	7.5	
4	10T-2	III	剥片	珪質頁岩	6.47	2.89	0.48	7.5	
5	10T-3	III	剥片	珪質頁岩	3.49	2.78	0.82	3.8	左側面に使用痕

第1表 月岡遺跡出土旧石器観察表



第10図 月岡遺跡発掘調査・確認調査出土縄文時代遺物実測図 (S=1/3)

に形成され、そこから棒状剥離が加えられている。平面形は凸形である。縦長剥片を素材とする。3は石刃で、縦長剥片を素材とし先端部に細部調整を施す。2・4・5は剥片である。5は、左側面に細かな剥離が見られ、使用痕が認められる。

B) 縄文土器 [第10図6~20]

前述のとおり、排水路・築堤部合わせて計105点出土し、8割以上が縄文のみの土器片で占める。遺物の出土位置は1B~1Dグリッドに集中し、殆どⅢ層から出土している。排水路から築堤部分へ東側に多く分布する傾向である。6~9、12、13はいずれも深鉢の胴部破片である。地文は縄文を施した後に沈線で文様を施す。10は沈線のみを施す。14は、地文は縄文で、隆帯を貼り付けた後、半截竹管で沈線を施した胴部破片である。15・16は同一固体であり、底部径17.8cmを測る。底部には網代痕が残る。17・18は焼土から出土した土器で外面に縄文LRを施す。19は背竹管で沈線を施した胴部破片である。20は、口縁部突起の破片である。表面は摩滅しているが、文様は沈線及び隆起線文を施す。出土した縄文土器は縄文時代中期前葉から中期中葉に属するものである。

C) 石器 [第10図21~26]

石器は排水路・築堤部合わせて計25点出土している。製品は6点である。その他は礫が1点を除き剥片である。石器も縄文土器と同様に1B・1Cグリッドに集中する傾向にある。

21は磨製石斧の基部で1C-1のⅢ層から出土している。長さ5.74cm、幅4.81cm、厚さ1.59cm、重量74.3gを量る。石材は蛇紋岩である。22は打製石斧と思われる。右側縁に片刃がある。長さ6.62cm、幅3.74cm、厚さ1.03cm、重量29.0gである。裏面石材は変成岩である。23は、板状石器である。長さ4.51cm、幅4.56cm、厚さ1.31cm、重量44.6gである。石材は安山岩である。扁平な自然縁を素材とし、片面加工が一般的であるが、両面から2次加工をおこなっている。平面形は不整形である。24は石匙である。長さ10.09cm、幅10.1cm、厚さ1.42cmである。石材は凝灰岩である。つまみ部分に自然面を残す。片面加工を施し、刃部に粗雑な2次加工を運らす。20は石核である。石材は安山岩である。26は磨石類である。長さ6.43cm、幅5.61cm、厚さ3.77g、重量197.9gである。石材は砂岩である。片面のみにスリ痕がある。

D) 土師器 [第10図27]

1C-1のI層より出土した鉢もしくは甕の把手破片であると思われる。県内の弥生・古墳時代通してもあまり類例がない。円錐形を呈し内面中央には直径2

じ大きさ孔があり直線上で繋がる。棒状のものを軸に3つの粘土紐を巻き付け、粗く調整したものと思われる。胎土より弥生～古墳のものと思われる。

(全體)		B	C	D	E	F	G
		4 3 2 3 3 4	3 10	3 4	3 5		2
		2 3 3	2 10	2 3	2 5		
(手縁)		B	C	D	E	F	G
		3 2 2 3 3 3	2 8	2 3	2 5		
		2 3 3	2 8	2 3	2 5		
(鉢)		B	C	D	E	F	G
		1 2 1 1	3 2	2			2
		1 1	2	2			

第11図 月岡遺跡発掘調査(排水路)出土遺物分布図

遺物観察表 (14年度確認調査)

番号	図版番号	出土地点	層位	器種	石材	法量 (cm ³ ・g)				備考
						長さ	幅	厚さ	重量 (g)	
1	6	5T	III	打製石斧	安山岩	10.79	4.89	1.52	106.0	使用痕有
2	7	5T	III	石核	頁岩	5.80	7.87	5.21	290.4	

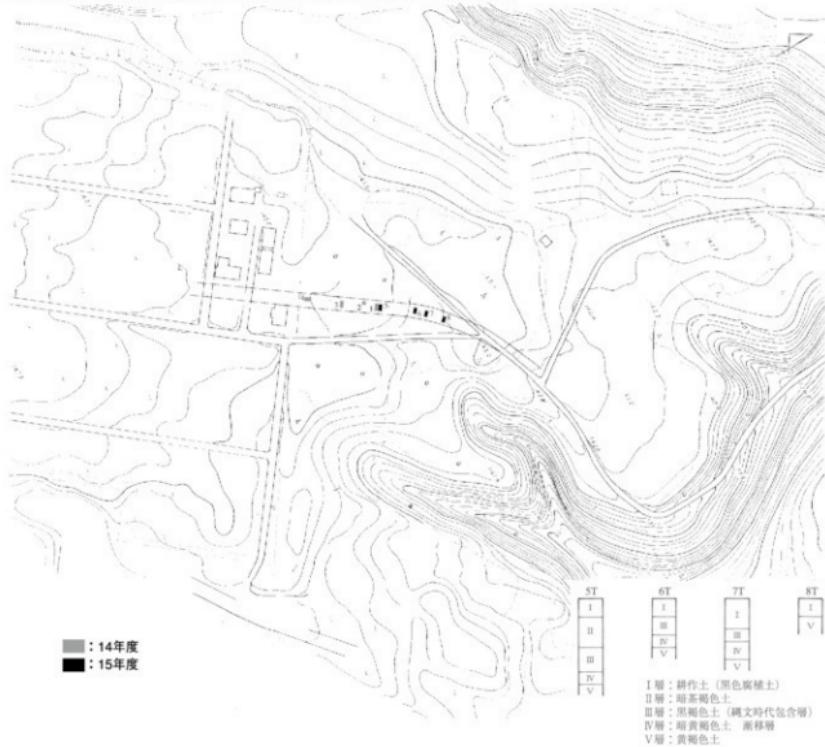
遺物観察表 (15年度発掘調査)

番号	図版番号	出土地点	層位	器種	石材	法量 (cm ³ ・g)				備考
						長さ	幅	厚さ	重量 (g)	
3	21	1C-1	III	磨製石斧	蛇紋岩	5.74	4.81	1.59	74.3	1/2残存 刃部欠損
4	22	10T	III	打製石斧	変成岩	6.62	3.74	1.03	29.0	
5	23	14T	III	板状石器	安山岩	4.51	4.56	1.31	44.0	
6	24	12T	III	石匙	凝灰岩	10.09	10.10	1.42	117.0	
7	25	12T	III	石核	安山岩	11.75	6.00	3.75	225.6	
8	26	1C-1	III	磨石類	砂岩	6.43	5.61	3.77	197.9	片面にスリ痕有

表2 月岡遺跡出土土器(縄文時代)観察表

月岡公園遺跡2次確認調査

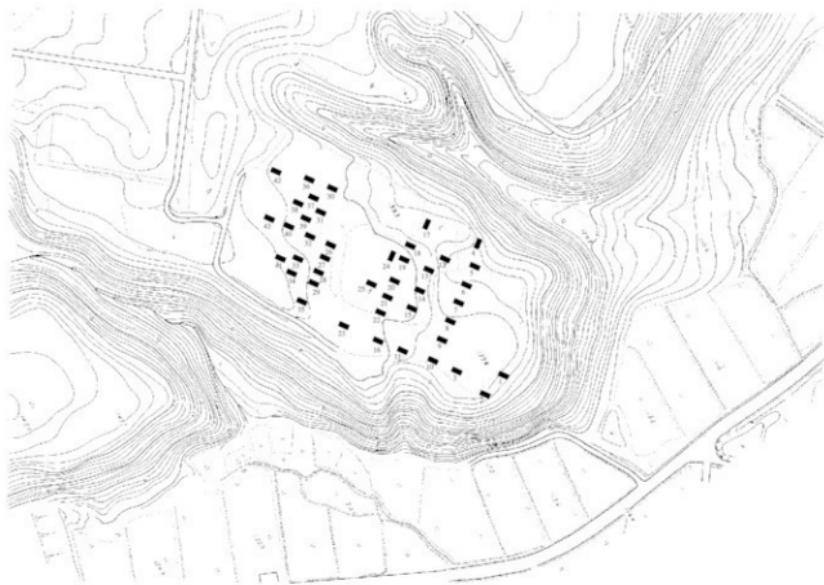
前年度確認調査の結果、2~4Tの堆積状況より遺跡は南へは広がらないと考え、遺物がまとまって出土した1Tより北側に試掘坑を設定し、再調査を行った。調査期間は平成15年6月10日から6月17日までを行い、試掘坑4ヶ所（5~8T）、調査面積は、約28m²である。基本層序は、I層：黒色腐植土（耕作土）、II層：暗茶褐色土、III層：黒褐色土（縄文時代遺物包含層）、IV層：黄褐色粘質土 漸移層 V層：黄褐色粘質土から構成される。調査の結果、遺構・遺物は全く認められなかった。1次調査にて遺物が出土し拡張した試掘坑5Tからも新たに遺物が検出されないため調査対象区が本遺跡の南はずれにあたることからも工事に支障はないとの判断した。



第12図 月岡公園遺跡第2次確認調査トレンチ位置図 (S=1/2500)

平成16年度 月岡遺跡第3次確認調査

北東側平坦部（調査対象面積約12,000m²）に対し遺跡の規模を確認調査した。調査地は緩やかな傾斜の雜木林である調査は平成16年6月17日～7月16日までを行い、試掘坑43ヶ所、調査面積約450m²である。基本層序は、I層：黒色腐植土及び客土、II層：暗褐色土、粒子が細かく粘性が強い。調査区の所々で見られる。III層：黒褐色土、粒子が細かく粘性が強い。IV層：暗黃褐色土 漸移層。V層：黄褐色土から構成される。調査の結果土層堆積から地形はかなり擾乱をうけており、遺構・遺物は検出されなかった。試掘坑26から29のラインより東側は1段落ち込み、26T・27Tでは客土が1m弱も認められ、傾斜地を平らに埋め立てた痕跡があった。よって本遺跡の範囲からはずれているものと思われる。



第13図 月岡遺跡第4次確認調査トレンチ位置図 ($S=1/2500$)



第14図 月岡遺跡第4次確認調査土層柱状図 ($S=1/40$)

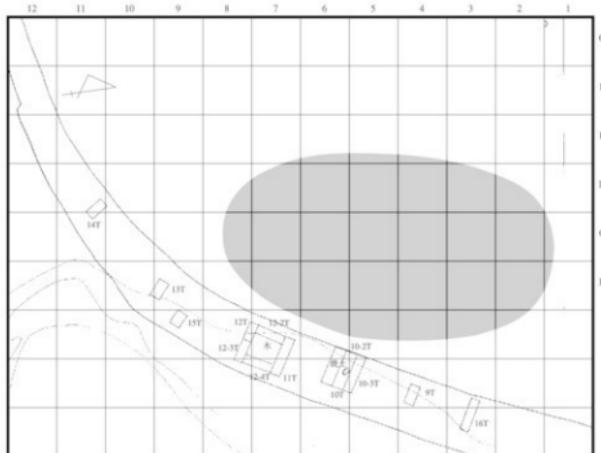
第5章 まとめ

月岡地区総合公園整備事業に伴う月岡遺跡発掘調査は16年度の調査をもって終了することとする。調査の結果は前章で述べたとおり、全体で遺構はわずかピット、焼土各1基ずつ、出土遺物も旧石器5点、縄文土器110点、縄文時代の石器24点、土師器1点である。旧石器時代の遺物は旧石器時代の生活面と考えられるIV層から彫刻刀形石器1点のみが出土し、縄文時代の遺物も含め大半がIII層からであった。過去2回の発掘調査のような極めて密度の濃い遺物集中地を確認することはできなかった。この要因は、（排水路部分を除き）主に遺跡の範囲を把握することが目的の確認調査であったことと、大型耕作機械化による旧石器時代面の土壤の擾乱等が挙げられる。が、今回実施した3回の調査により本遺跡の全体的な広がりをほぼ推定することは可能である。ここでは今回調査した月岡遺跡の概要を記しとめたい。

今回の調査では旧石器時代の石器が排水路部から1点、築堤部から4点出土している。それと過去2度の発掘調査から特に遺物分布密度が濃いのは昭和43年の調査で旧石器が出土した地点を中心として間違はない。築堤部付近は排水路より1段下がった面で、機械化による杉苗圃の造成によって土壤が上面から流れていた可能性が高い。また排水路部分を見ても西側（E～Gグリット）では遺構がピット1基、遺物もわずか土器片2点が出土したに過ぎない。対し東側（B～Dグリット）では1B-4・1C-6を中心に遺物の集中が確認される。これは西から東へ緩やかな傾斜地をなし、旧土壤が東側へ押し流されたためである。また16年度確認調査により本遺跡が北東段丘面では皆無であることから月岡遺跡の北端は排水路部分までにならうかと思われる。

出土遺物については旧石器面（IV層）から唯一出土した彫刻刀形石器は、左肩をほぼ垂直にそいで彫刻刀面を作り出したもので、荒屋型彫刻刀とはやや異なる。今回新たに石器の形態分類や編年はもとより集団構造の把握に際して基礎資料の蓄積がなされたものと思われる。

これら的事は既に指摘されていることばかりであり、今後の考察にあたっては、出土遺物（旧石器）の細かな分析やこれまでの調査で蓄積された資料と荒屋遺跡・中土遺跡等他の細石刃文化の遺跡との比較検討して月岡遺跡の様相を明らかにしていくことと月岡遺跡で生活した人々の姿を正しく導き出していくことを課題としたい。



第15図 月岡遺跡旧石器包含層推定範囲図 (S=1/1000)

引用・参考文献

- 佐藤雅一 1985 「権現平遺跡」「関越自動車道 埋蔵文化財発掘調査報告書一下倉山遺跡 権現平遺跡 両新田遺跡」新潟県教育委員会
- 佐藤雅一他 1985 「瓜ヶ沢遺跡」「関越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書—瓜ヶ沢遺跡 滝沢の塚 七久保遺跡 苗場山城跡」新潟県教育委員会
- 佐藤雅一・八本次男 1988 「旧石器時代から縄文時代草創期の遺物—魚野川流域を中心としてー」『新潟考古学談話会会報第1号』新潟考古学談話会
- 澤田 敦・田海義正 2002 『荒屋遺跡—範囲確認調査報告書』川口町教育委員会
- 鈴木俊成・田海義正 1990 『月岡遺跡・古長沢遺跡—新潟県北魚沼郡堀之内町月岡・古長沢遺跡確認調査報告書』堀之内町教育委員会
- 芹沢長介 1990 『荒屋遺跡—第2・3次発掘調査概報ー』東北大文学部考古学研究室・川口町教育委員会
- 中村孝三郎・小林達雄 1975 『月岡遺跡』『日本の旧石器文化』2遺跡と遺物（上）雄山閣
- 新潟県教育委員会 1990 『関越自動車道関係発掘調査報告書 清水上遺跡』
- 堀之内町 1990 『堀之内町史』

調査体制

平成14年度確認調査

調査主体 堀之内町教育委員会（教育長 角屋禮士）

調査担当 梅川勝史（堀之内町企業課 主任）

調査員 高木公輔（広神村教育委員会 主事）・・・派遣

事務局 堀之内町教育委員会（社会教育係 齊藤勝浩）

整理作業 渡辺恒子 桜井ヤス子

調査作業員 丸山武止 大潤登規夫 吉田武男 渡辺正二 高橋栄治 上村正幸 中村靖計 本田孝一

平成15年度発掘調査・平成16年度確認調査

調査主体 堀之内町教育委員会（教育長 角屋禮士）

平成16年11月1日以降 魚沼市教育委員会（教育長 伊藤 博 2月1日～町田 昌）

調査担当 梅川勝史（堀之内町教育委員会 平成16年11月以降～魚沼市教育委員会生涯学習課）

調査員 梅川勝史（社会教育係主任 平成16年11月以降 魚沼市教育委員会生涯学習課文化財係長）

事務局 齊藤勝浩（社会教育係主任）

平成16年11月以降 浅賀庸子 魚沼市教育委員会生涯学習課主任）

整理作業 渡辺恒子 吉田理恵子 松井由紀子

調査作業員 高橋栄治 大潤登規夫 渡辺正二 本田孝一 小野三郎 佐藤 猛 渡辺恒子（平成15年度）

高橋栄治 大潤登規夫 佐藤 猛 小野三郎（平成16年度）

平成17年度整理作業

調査主体 魚沼市教育委員会（教育長 町田 昌）

調査担当 梅川勝史（生涯学習課文化財係長）

整理担当 高木公輔（生涯学習課文化財係主任）

整理作業 横山亜希子

事務局 浅賀庸子（生涯学習課文化財係主任）

報告書抄録

ふりがな	つきおからいせき							
書名	月岡遺跡							
副書名	月岡総合公園整備事業に伴う月岡遺跡発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	魚沼市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第1集							
編著者名	梅川勝史 高木公輔							
編集機関	魚沼市教育委員会							
所在地	〒949-7494 新潟県魚沼市堀之内130番地							
発行年月日	西暦 2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ° °	° ° °			
つきおからいせき 月岡遺跡	にいがたけんうおぬましまほりのうちあづきおか 新潟県魚沼市堀之内字月岡	152251	1	37度 14分 58秒	138度 58分 24秒	20021107～ 20021113 20030506～ 20030617 20040617～ 20040706	44 398 450	公園造成
つきおかこうえんいせき 月岡公園遺跡	にいがたけんうおぬましまほりのうちあづきおか 新潟県魚沼市堀之内字月岡	152251	22	37度 14分 58秒	138度 58分 24秒	20021107～ 20021113 20030610～ 20030617	28 28	公園造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
月岡遺跡	散布地	旧石器 縄文時代中期	ピット・焼土			縄文土器16点、石器5点 亞石器5点、縄文土器110点 石器24点、土師器1点		
月岡公園遺跡	散布地	縄文時代中期				縄文土器11点 石器片15点		

図 版

- 図版1 平成14年度月岡遺跡第2次確認調査
- 図版2 平成14年度月岡公園遺跡確認調査
月岡遺跡・月岡公園遺跡確認調査出土遺物
- 図版3・4 平成15年度月岡遺跡発掘調査（排水路）
- 図版5・6 平成15年度月岡遺跡第3次確認調査（築堤部）
- 図版7 平成15年度月岡公園遺跡第2次確認調査
- 図版8 平成16年度月岡遺跡第4次確認調査
- 図版9 月岡遺跡発掘調査出土遺物（旧石器・縄文）

図版 1

月岡遺跡確認調査



調査地風景（東から）



調査作業風景（東から）



3T完掘（東から）



5T完掘（北から）



6T完掘状況（南から）



7T完掘（東から）



調査地風景 (南から)



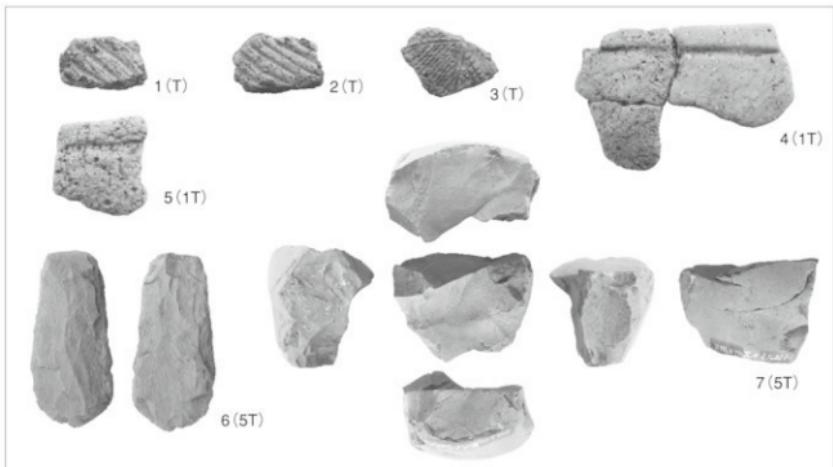
作業風景 (南から)



IT完掘状況 (西から)



IT断面 (南から)



月岡遺跡・月岡公園遺跡確認調査出土遺物 (S=1/3)

図版3

月岡遺跡発掘調査（排水路）



調査区全景（西から）



調査風景（西から）



1-B区 土層堆積状況（北から）



1-D区 土層堆積状況②（北から）



1-C区 土層堆積状況（西から）



1-F区 土層堆積状況（北から）



調査区完掘（西から）



調査区完掘（東から）



発検出状況



1-G区 遺構検出状況（北から）



ピット半截（西から）



ピット1完掘（北から）

図版5

月岡遺跡第3次確認調査（築堤部）



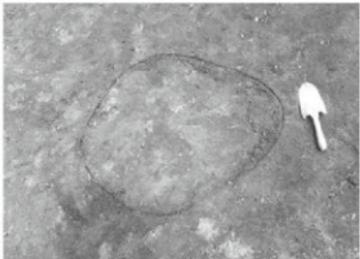
調査地全景（北から）



調査地全景（西から）



T10 完掘・T10-2 焼土検出（西から）



T10-2 焼土（西から）



T10-2・3 IV層上面（西から）



T10-2 焼土（南から）



10-2 燃土断面（南から）



10-2・3 完掘（西から）



12T完掘（西から）



12T土層断面（北から）



16T完掘（西から）



16T土層断面（北から）

図版 7

月岡公園遺跡第2次確認調査



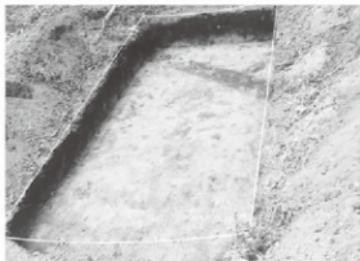
調査地風景（南から）



調査地風景（北から）



5T完掘（東から）



6T完掘（東から）



7T完掘（東から）



8T完掘（東から）



調査区風景（南から）



作業風景（南から）



14T完掘（北から）



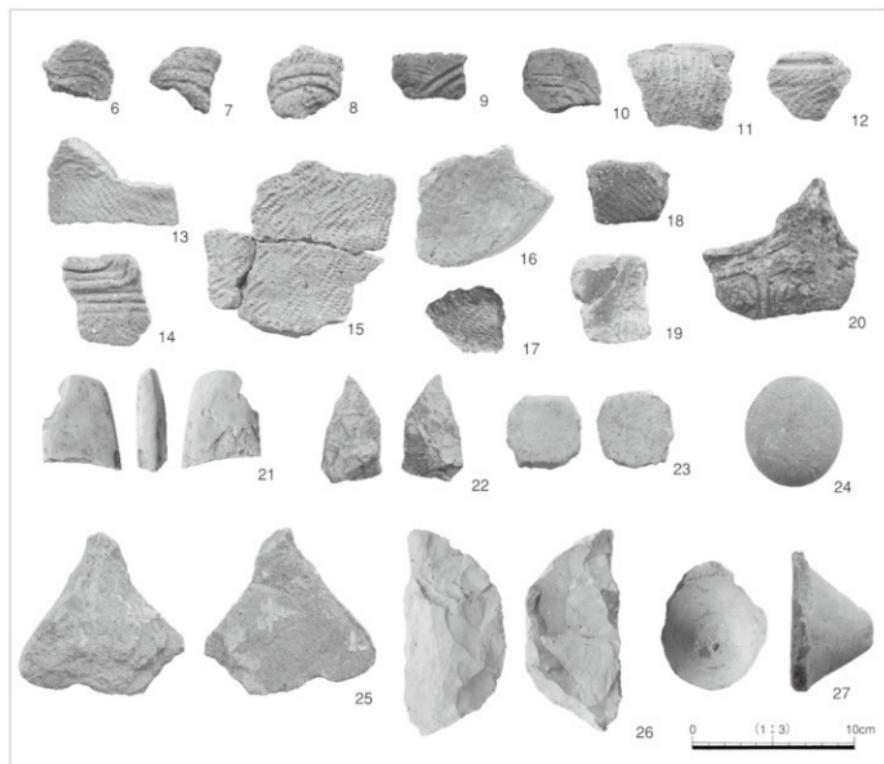
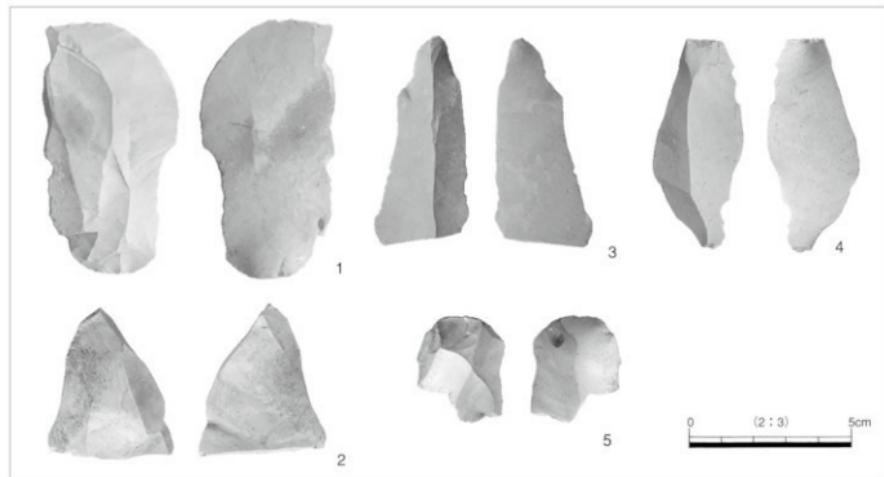
14T土層断面（西から）



26T完掘（北から）



26T土層断面（西から）



月岡遺跡発掘調査出土遺物（旧石器・縄文）

魚沼市埋蔵文化財調査報告書 第1集

月岡遺跡

月岡総合公園整備事業に伴う月岡遺跡発掘調査報告書

発行 2006(平成18)年3月31日

魚沼市教育委員会生涯学習課

〒949-7494 新潟県魚沼市堀之内130番地

TEL 025-794-6073／FAX 025-794-4210

印刷 株式会社 今井印刷

〒946-0024 新潟県魚沼市中原446-4

TEL 025-792-1233